

出番を待つ



昔の寺子屋でその面影を残す、上大町の『源内様』。今や数多くの集いなどに利用され、岩船の中心的居場所になつてい

御承知の通り先住の方から、町に家屋敷そっくり寄贈されたもの。

岩船商工業会の工業クラブの手により奉仕作業で、ある程度補修整備されたもの。

表の黒格子戸を外して広々と見える板の間や、天井なしの梁の力強さ、又屋内から見る町すじ、祭屋台の通過は特に開放さ

れる旅人には大好評だ。その佇まいを残し、それにマッチする「看板と、昔の赤いポスト」と言う事になった。

有志による看板は出来上がった見ると、想像以上の出来映えとの事で、風雨に晒すには勿体ないと、今頭を悩ましている。

材料を出す人、削る人、書ずる人、彫る人と、何十人の手を渡つただけに簡単には定まりそうもない。又岩船のシンボルにもなる故に、ゆつくり時間を掛けて、ここならよかろうと場所を見つけてほしい。

岩船の魅力探しと町づくり座談会

あすの岩船を考える会

鈴木 恒夫



かつて松竹映画のプロデューサーとして「おはなはん」「男はつらいよ」等多くの

作品を作られ、又町作りの映像、著書も多数製作出版された塩谷出身の齊藤次男さんが長年の経験を生かし地区にある宝と伝説を取り入れた映像を作り世間に宣伝して地区の交流人口を増やし地域活性化に寄与したい、との話が当会で紹介され、急遽2月5日表記の会が開かれました。

齊藤さんは町に言い伝えられている「警障（けいしょう）の舟に乗って此の地に着いた、饒速日命（にほひのみこと）と言う神様」の名を使った商品作りや同名神様ゆかり地区の集い「饒速日命サミット」を開催したら等と提案され又出席者からの質問に応答しながら盛り上がり有意義な会となりました。続いての懇談会でも映像作りの熱意を語り筋書きやスタッフの手配等すでに自身の中で出来上がっている様な感じを受けました。

まもなく魚直売所までの大通りが完成します。港があり野外ステージ、栗島汽船駅、遊漁船係留用地、御幕場等集客出来る拠点は沢山あり皆で知恵を出し合い、行動する事で、観光客で賑わう町になるだろうと想像しています。

いまどき？



今どき、と笑うでしょうが、我家の年中行事。何時まで続くものか!!自分では出来る限り笑われても思っているが、時代と共に変化し消滅して行くのが寂しく感じる。例えば、小正月、神棚へは四角の餅二枚敷、その上に小福だいを乗せ中央にヤドメを立て、三宝には串柿、栗、かやの実を供えた物、今や小正月そのものが消滅しつつ、小福だいをさえ入手困難と言うより作つたり売つたりは、もう無いに等しい。とうとう我家も今年の小正月飾りは小福だいのみ餅まんじゅうと相成つた。それでも十八ヶ所のお供は守る事が出来た。

他から見れば信心家に見えるかもしれないが、私の場合は生活上の節、節、つまり区切りの方が意義有りと時期折折のつもりだ。

正月、小正月、桃の節句、端午の節句、岩船祭と十八ヶ所のお供えは続いている。自分でもどうなるか予想はつかぬが、続く限り頑張りたいと思う。しかも田舎特有の一月遅れの桃の節句も変わりなく迎えたいと思う。

「まゆ玉飾り」

岩船保育園長 伊與部 英子



岩船保育園のまゆ玉飾りの行事は、岩船親睦会の方々の協力をお願いいただき、今年で13年目になります。

11月下旬、ミズキの木の準備から始まり、1月7日には、玄関に取り付けて下さり、まゆ玉飾り当日(14日)は、5歳児34名と祖母25名が参加し団子を作り、子供達が作った干支の飾りや縁起物の飾りをミズキの木に飾り付け、おじいちゃん、おばあちゃん達と楽しく触れ合いました。

毎年盛大に行なう事が出来るのも偏に、親睦会の方、地域の方、保護者の方々皆様のご支援のお陰と感謝致しております。

3・4・15 岩船港線地域自立活性化（街路）交付金道路改良工事 工期期間延長のおしらせ

完了予定日：平成23年2月28日→平成23年7月下旬（予定）

このたび工事内容の増工により工期を延長することとなりましたのでお知らせします。引き続き御迷惑をおかけしますがどうぞ宜しく御願い致します。

